

## 浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査結果（速報・第 75 報）

「浜岡原子力発電所の安全確保等に関する協定（以下「4市協定」という。）」に基づき、発電所から半径 10km 圏内で実施している発電所周辺の環境放射能調査についてお知らせします。

平成 29 年 4 月 28 日付けの前の報告以降、下記の測定項目の一部において過去の変動幅（特に断りのない限り、東京電力㈱福島第一原子力発電所の事故（以下「東電事故」という。）発生前の過去 10 年の最小値と最大値の範囲）の上限を超過しましたが、浜岡原子力発電所の影響ではなく、調査の結果、東電事故の影響が原因であると推定しました。

なお、東電事故以降平成 27 年度までの間の最小値と最大値の幅である「震災後の変動幅」を併記した項目があります。

（注）平成 29 年度の過去の変動幅は、平成 29 年度第 1 回目の静岡県環境放射能測定技術会で決定されるため、暫定的に平成 28 年度の値を用いています。

## 記

1 測定結果（表中の括弧内の数値は検出下限値を表す）

(1) 土壌（御前崎市：4/14 採取、牧之原市：4/18 採取、0～5cm）

表 1

単位：Bq/kg 乾土

採取地点	測定機関	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	$^{40}\text{K}$
御前崎市 下朝比奈	監視センター	検出されず (0.93)	$8.8 \pm 0.5$ (1.4)	$570 \pm 10$ (36)
	中部電力㈱	検出されず (1.3)	$10.1 \pm 0.5$ (1.4)	$580 \pm 10$ (32)
御前崎市 新神子	監視センター	$1.1 \pm 0.2$ (0.60)	$6.8 \pm 0.4$ (1.2)	$527 \pm 9$ (28)
	中部電力㈱	検出されず (0.83)	$6.0 \pm 0.3$ (0.88)	$526 \pm 8$ (25)
牧之原市 笠名	監視センター	$1.4 \pm 0.2$ (0.65)	$11.1 \pm 0.4$ (1.3)	$690 \pm 10$ (35)
	中部電力㈱	検出されず (1.5)	$12.3 \pm 0.5$ (1.6)	$650 \pm 10$ (37)
過去の変動幅		検出されず	1.7～10.0	(自然放射性核種)
震災後の変動幅		検出されず～ 21.6	3.8～28.4	

## (2) しらす（発電所周辺海域：4/25 採取）

表 2

単位：Bq/kg 生

採取地点	測定機関	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	$^{40}\text{K}$
尾高漁場	監視センター	検出されず (0.026)	$0.073 \pm 0.008$ (0.025)	$89.3 \pm 0.7$ (2.0)
	中部電力(株)	検出されず (0.040)	$0.070 \pm 0.010$ (0.031)	$102.8 \pm 0.7$ (2.1)
過去の変動幅		検出されず	検出されず～ 0.071	(自然放射性核種)
震災後の変動幅		検出されず～ 0.21	検出されず～ 0.21	

## (3) 原乳（菊川市：4/13 採取、掛川市：4/13 採取）

表 3

単位：Bq/kg 生

採取地点	測定機関	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	$^{40}\text{K}$
菊川市 嶺田	監視センター	検出されず (0.014)	$0.017 \pm 0.004$ (0.013)	$48.6 \pm 0.4$ (1.1)
	中部電力(株)	検出されず (0.024)	検出されず (0.022)	$48.8 \pm 0.4$ (1.2)
掛川市 下土方	監視センター	検出されず (0.013)	$0.017 \pm 0.004$ (0.011)	$47.5 \pm 0.3$ (1.0)
	中部電力(株)	検出されず (0.015)	検出されず (0.011)	$45.4 \pm 0.3$ (0.92)
過去の変動幅*		検出されず	検出されず～ 0.029	(自然放射性核種)
震災後の変動幅		検出されず～ 0.43	検出されず～ 0.45	

※ 御前崎市三間（平成 13～14 年度第 3 四半期）、御前崎市名波（平成 14 年度第 4 四半期～20 年度）、宮木ヶ谷（平成 21～22 年度）、及び、掛川市下土方（平成 16～22 年度）の測定値の最小～最大の範囲です。

## (4) 浮遊塵

表 4 (採取期間：2017/4/3～2017/4/30)

単位：mBq/m<sup>3</sup>

採取場所	測定機関	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)
御前崎市 白砂	監視センター	検出されず (0.0086)	検出されず (0.0091)	6.7±0.1 (0.34)
御前崎市 中町	中部電力(株)	検出されず (0.011)	検出されず (0.0084)	5.33±0.09 (0.26)
御前崎市 平場	監視センター	検出されず (0.0097)	検出されず (0.0091)	6.8±0.1 (0.34)
御前崎市 白羽小学校	中部電力(株)	検出されず (0.011)	検出されず (0.0080)	5.42±0.09 (0.26)
牧之原市 地頭方小学校	中部電力(株)	検出されず (0.011)	検出されず (0.0093)	5.32±0.09 (0.28)
過去の変動幅*		検出されず	検出されず	(自然放射性核種)
震災後の変動幅		検出されず～ 7.78	検出されず～ 8.21	

※ 平成 14～22 年度の測定値の最小～最大の範囲です。

## (5) 玉ねぎ (御前崎市：4/24 採取)

表 5

単位：Bq/kg 生

採取場所	測定機関	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>40</sup> K
牧之原市 堀野新田	監視センター	検出されず (0.0078)	検出されず (0.0080)	30.2±0.2 (0.60)
	中部電力(株)	検出されず (0.0098)	検出されず (0.0070)	30.4±0.2 (0.56)
過去の変動幅*		検出されず	検出されず	(自然放射性核種)
震災後の変動幅		検出されず～ 0.032	検出されず～ 0.049	

※ 平成 16～22 年度の測定値の最小～最大の範囲です。

## 2 原因調査

平成 28 年度環境放射能調査結果の評価方法に基づき、上限超過事象に影響を与えると考えられる項目について調査を行いました。

- (1) 測定系及びデータ伝送・処理系の健全性
- (2) 降雨等による自然放射線の変化による影響
- (3) 前処理・測定の妥当性
- (4) 核爆発実験等の影響
- (5) 統計に基づく変動の検討
- (6) その他

## 3 原因の推定

浜岡原子力発電所は、平成 23 年 5 月から運転停止中であること、また、排気筒や放水口モニタ等の測定値にも変化が見られないことから、浜岡原子力発電所からの影響ではないと考えられます。原因を調査した結果、前処理等に問題は認められず、過去の核爆発実験等の影響に東京電力㈱福島第一原子力発電所から放出された放射性物質の影響が加わったものと考えられます。

## 4 検出された放射能の影響について

特に断りのない限り、放射性セシウム濃度は  $^{134}\text{Cs}$  及び  $^{137}\text{Cs}$  の合計を指します。

### (1) 土壌

放射性セシウム濃度は最大 12.5Bq/kg 乾土でした。線量率への寄与は最大約 0.0075mSv/年(建屋による線量の低減を考慮した場合は 0.0045mSv/年)と推定され、公衆の年間被ばく線量限度 1mSv/年と比較して十分に低く、健康への影響を心配するレベルではありません。

### (2) しらす

被ばく線量に換算すると 0.000069mSv 程度と推定され、公衆の年間被ばく線量限度 1mSv/年と比較して十分に低く、健康への影響を心配するレベルではありません。

### (3) 原乳

$^{137}\text{Cs}$  が検出されましたが過去の変動幅の範囲内でした。

### (4) 浮遊塵

検出されませんでした。

### (5) たまねぎ

検出されませんでした。